

第4回学校再編計画策定委員会記録

- 1 日 時 令和2年4月14日(火)午後1時30分～午後4時10分
- 2 場 所 牧之原市役所相良庁舎3階会議室
- 3 参加者 委員10人全員出席
島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、小柳津敏法、石神綾子、服部真和、
種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香(順不同・敬称略)

4 要 旨

- 1～3校に再編した場合のさまざまな項目を比較して、それぞれのメリット・デメリットを整理し、その中で委員が特に重要だと考える事項について話し合った。
- 学校区を考える際には、「市としての一体感」か「地域性を残すこと」のどちらを重視するか。「統合した大規模校」と「さまざまな学校があること」のどちらのメリットを重視するかが論点となる。
- 義務教育段階の学校再編なので、義務教育・学校教育のあり方の理念に大きく関わる。10年後、20年後の学校教育の姿からも考える必要がある。
- 1校で大規模になっても小規模クラス編成などによりうまくマネジメントができるかもしれないし、小規模校であっても学校選択ができればよいのかもしれない。運営面、安全面をどうするかは、学校を考える際に不可欠なこと。
- 老朽化を考えると12校すべてを今のまま残すことは厳しく、1校にすることも10年後となると少し厳しいと感じる。現状としては2～3校をベースにしながら、場所の候補も含め、地域性、関わり、多様性、機会均等というところについて、もう少し議論をしていく。

5 意見のまとめ

(1) 協議 1 1～3校のメリット・デメリットについて

◎市として、一体感か地域性残すのかが大きな論点となる。

分類	項目	1校	2校	3校
行政	予算	集中して使える	分散される	分散される
	一体化 (政策・情報・ 交流)	集約され牧之原市 として総合的なもの になる	旧町の文化・地域 性がある(旧町単 位のメリット・デメリ ット有)	旧町の文化・地域 性がある(旧町単 位のメリット・デメリ ット有)
	スクール バスの運営	多くの台数が必要	台数は比較的 少ない	台数は比較的 少ない
学校・ 教員	施設	充実する	学校による違いが でる(それが逆によ さにもなる)	学校による違いが でる(それが逆によ さにもなる)
	規模	大規模すぎる	適正規模に近い	1校だけ小規模に なる(通う側が大規 模・小規模を選択 できるようにするこ とも可能)
	運営面	人員の把握・安全 面に難しさ	人員の把握・安全 性が確保できる	1校だけ小規模に なる(通う側が大規 模・小規模を選択 できるようにするこ とも可能)
	地域との 関わり	遠くなるため、地域 の理解が得られる か	既にあるものを活 かすことができる	既にあるものを活 かすことができる
子ども	規模(学びや すさ・人間関 係含む)	クラス替えでき、多 様な人間関係が築 けるが、規模が大 きすぎる	クラス替えができ、 学びやすく人間関 係も固定化しない	1校だけクラス替え ができない
	通学時間・ 手段	距離が遠い人多 く、時間が掛かり、 バス通学が増える	通いやすい	通いやすい
地域・ 保護者	関わり	新たな関係を築く 必要がある	現状に近いので 基本的に関わり やすい	現状に近いので 基本的に関わり やすい
	旧町の文化	旧町というより牧之 原市としての新た な文化が生まれる	旧町の文化・特色 を継承することがで きる	旧町の文化・特色 を継承することがで きる

(2) 協議 2 どの項目を重視するか。大事にしたいこと、視点など

- 学校のあり方として、多様性を残すことによってこれまでの形状も継承しつつ、小規模校をセーフティネットとしても残すことがメリットである。
- 1校では大きすぎてしまって運営していくイメージが持てない。1校になればそれだけお金が掛けることができ、いいところもたくさんあるが、マンモス校のマネジメントの仕方に課題があると思う。
- 小規模校が残ることのよさも分かるが、1つだけが単学級で残るということはないと思う。学校運営では「学びの充実」と「安全」が大事だと思う。そのためにも地域の方々の存在が欠かせない。2校になれば旧町のよさが出るので、それぞれのよさを活かしていけるのではないかな。
- 10年後、30年後は、AIが進んできて、日常の学校教育そのものが変わり、おそらく教科の授業は各家庭で映像を見て学ぶ時代になるのではないかな。地域に密着した旧町単位に箱物としての学校が1校ずつあって、その地域の文化や教育、体育、倫理・道徳を学校で教えるようになるのではないかな。人間性を磨く面では一か所に集まって、コミュニケーション取ることは大事なことです。大きい・小さい、この場所がいい・悪いではなく、もっと大局を見て考える必要がある。
- 今の学校は地域に密着していてよいが、将来お金が心配。子どもたちや地域のことを考えて、どのような状態が一番いいかを考える必要がある。牧之原市は旧相良町・旧榛原町でできているが、旧町内の人同士があまり分かり合っていないため、まずは相良で1つになる、榛原で1つになることで新しい地域性が生まれてくるのではないかな。児童生徒数的を見ても2校が市民理解を得られると考える。予算、規模、地域性を重要視して考えていく。
- 1校は、メリットよりデメリットの方が多い。自分は2校か3校かと思う。地域らしさ、人間らしさはすごく大事なことであり、地域の方と小規模ならでは人のつながりも大切。3校にした場合、自分で小規模校か大規模校かを選択できるのはよいと感じるが、それが牧小中学校区でなくてもよいと思うので、平等に考えた方がよい。地域性を活かしながら子どもが楽しく学べるのが一番大事なので、それを主において学校づくりができればよい。
- 予算を考えなければあこがれの学校ができると思うがそれはできない。しかし、子どもたちが、そこに通いたいと思える学校が一番だと思う。学校の学びは教科書を使ったことはもちろんだが、人との関わりや体験で学ぶことが大きいと思っているので、地域との関わりは新しい学校でも重視したいところである。特別支援学級も今まで以上に増えてくると思う。大勢の中で活動することが苦手な子どももいるため、自分のことをきちんと見てくれる大人がいると子どもが実感する環境としては、1校はあり得ない。2校か3校にして、地域との関わりをつなげたい。
- 1校にすることで、旧町の垣根がなくなり市として一つになれるチャンスだとは思いますが、1校という選択肢は無い。大規模校になじめない子も出てくる可能性はあ

るため、小規模校を残す選択肢もあるかもしれないとも考えた。現在子どもが小規模校に通っているが、子どもは、クラス替えがあつたり、たくさんの友だちがいたりする大規模校をうらやましいと感じている。今、他に小規模に通っている子の中でも大規模校に通いたいと思っている子どももいると思うので、大規模学校の子も小規模学校の子も学校を自由に選択できると良い。3校はコスト面が心配。牧之原市は田舎だからできないこともあるが、できることがある。今だからこそ、地域性を大切にしたい。旧相良町・旧榛原町に分かれてしまってもそこで育った子どもはいい子に育つと思う。2校か3校のどちらがよりよいかはつきりは分からない。

- PTAの運営面から考えると、1校は大きすぎて、活動も多様化しすぎてしまい、PTAがまとまるのは難しい。地域が広すぎると集まること自体が難しくなるため、2、3校がベストだと思う。小中一貫校になった場合に、新しいPTA運営をすることは難しいかもしれないが、それでも2～3校であれば、それなりの地域性も保たれているので、まとまりやすいのではないかと。
- 小規模のよさを語るなら現在の12校のままでいいという議論になってしまう。しかし、あきらかに人口が減ってくるため、今、学校がどうあれば理想形かということについて先手を打って考えている。これは学校づくりでもあるし、まちづくりでもある。牧之原市をどんな市にしていくのかを一緒に考えている。積極的に小規模校を1校残そうということであるのならば、前向きな1つの選択肢として議論ができると思うが、12校を残すのは違う話となる。市に1校の学校になると大規模すぎるという意見から、2校にするか3校にするかの議論になったかと思うので、大規模のよさ、小規模校のよさをとことん議論していくのがよいと思う。公の教育は、どの地域に住んでいても同等の教育が受けられる平等性が求められるため、もし小規模のよさを残す選択をして3校にするのであれば、学区の考え方や選択についてどう定義付けていくのかということが課題となってくる。
- ICTや学びの環境が今後どうなっていくか分からないが、人と人のつながりは、どんな時代になっても必要だと思う。アメリカなどではインターネットだけで授業をしているところも出てきて、箱がいらぬ学校も出てきているとは思いますが、小中学校で箱があって集まって授業したことはその人の中で残っていくものになるのではないと思う。そういう前提で10年後、20年後にいい方向を探っていくと今は現実的にありえるのは2校か3校。将来的には1校もあるのかもしれないので、可能性を残しながら段階的に考えていく。